

大芝芳弘教授

退職記念論集

まえがき

二〇二〇年三月をもつて、大芝芳弘先生が退職されました。先生は一九九四年四月に本研究室内に西洋古典学講座が新設された際、その最初の一員として着任され、以来本研究室において二六年間にわたり研究・教育に尽力されました。その間、緻密にして視野の広い数々の研究でもって本邦の西洋古典学の進展に寄与されるとともに、本学の学生・院生達の中に深く正確な古典読解力を養う教育を堅実かつ精力的に実践してこられました。

その御力の大きさを思い返すにつけ先生の御退職は残された我々に強い喪失感を与えるものではありませんが、築いてくださった新たな伝統を受け継ぎ発展させる覚悟をここにもちたいと思います。

深い感謝とともに本書を大芝芳弘先生に捧げます。

大芝芳弘教授略歴

- 一九五五年三月八日 山梨県に生まれる
- 七三年三月 山梨県立甲府南高等学校卒業
- 七三年四月 東京大学教養学部文科三類入学
- 七五年四月 同文学部西洋古典学専修課程進学
- 七八年三月 同卒業
- 七八年四月 東京大学大学院人文科学研究科西洋古典学専門課程修士課程入学
- 八一年三月 同修士課程修了
- 八一年四月 同博士課程進学
- 八六年三月 同博士課程単位取得済み退学
- 八六年四月 東京大学文学部助手（西洋古典学研究室）
- 九二年一〇月 同助手休職・海外研修（*Thesaurus linguae Latinae, München*）
- 九四年四月 東京立大学文学部助教（哲学科西洋古典学講座、のち哲学・西洋古典学講座）
- 二〇〇五年四月 首都大学東京都市教養学部教授（人文社会系国際文化コース哲学教室）
- 一八年四月 首都大学東京人文社会学部教授（人文学科哲学（哲学・西洋古典学）教室）

二〇年四月 首都大学東京（東京都立大学）名誉教授

非常勤講師歴

相模女子大学学芸学部（一九八四年四月～一九八九年三月）、共立女子大学文芸学部（一九八六年四月～一九九二年三月）、一橋大学経済学部等（一九八七年四月～一九九二年七月）、成城大学文芸学部（一九八九年四月～一九九一年三月）、東京大学大学院総合文化研究科（一九九四年四月～一九九七年三月）、お茶の水女子大学文教育学部（一九九五年四月～一九九八年三月）、東京大学教養学部（一九九七年四月～二〇〇〇年三月）、東京大学文学部・大学院人文社会系研究科（一九九八年四月～二〇一六年三月、二〇一七年四月～二〇一八年三月）、東京大学大学院人文社会系研究科客員助教授（二〇〇一年四月～二〇〇三年三月）、慶應義塾大学大学院文学研究科招聘教授（二〇一一年四月～二〇一二年三月）、京都大学文学部・大学院文学研究科（二〇一二年四月～二〇一三年三月）、慶應義塾大学大学院文学研究科（二〇一二年四月～二〇一六年三月、二〇一七年四月～二〇一八年三月）、九州大学文学部・大学院人文科学府（二〇一五年一〇月～二〇一六年三月）、東京都立大学人文社会学部（二〇二〇年四月～）

業績一覧

共編著

二〇一〇年三月 大芝芳弘・小池登〔編〕『西洋古典学の明日へ 逸身喜一郎教授退職記念論文集』（知泉書館）

共著

二〇一一年七月 慶應義塾大学〔編〕『文明のサイエンス 人文・社会科学と古典的教養』（慶應義塾大学出版会）〔担当部分…「ラテン語辞書学と西洋古典学」、九五～一二四頁〕

二〇一〇年一〇月 葛西康德〔編〕『藤花のたわむれ 久保正彰先生の卒寿を祝して I 久保正彰先生卒寿記念論集』

(*Bibliotheca Wisteriana*)

二〇一一年一月 浜本裕美・河島思朗〔編著〕『西洋古典学のアプローチ 大芝芳弘先生退職記念論集』（晃洋書房）

雑誌論文等

一九八四年 「黄金の枝と黄金時代」 『西洋古典学研究』第三二号、七九～九〇頁

一九八九年 「『アエネーイス』のトゥルヌス像」 『地中海学研究』第一二号、四九～七六頁

一九九〇年 「プロペルティウス 41.81.8」 『西洋古典文学における写本伝承史と本文校訂論の実証的研究』（文部省

科学研究費補助金による研究成果報告書、東京大学文学部）、二五～四二頁

一九九〇年 「ソポクレース『エーレクトラー』解説」 『ギリシア悲劇全集4』（岩波書店）、四二三～四四一頁

一九九七年 「*Imposuisse Modum*——オウィディウス *Ars Amatoria* 第二巻における「恋の技術」——」『人文学報』

(東京都立大学人文学部) 第二七六号、八一〜一五六頁

二〇〇〇年 「カトウツルスの弁論批判——第四四歌をめぐる——」『西洋古典学研究』第四八号、八八〜一〇〇頁

二〇〇一年 「カルウウスとカトウツルス(1)——カトウツルス第一四歌をめぐる——」『人文学報』(東京都立

大学人文学部) 第三二四号、一〜五〇頁

二〇〇一年 「アッティクス宛書簡集Ⅱ 解説」『キケロー選集14 書簡集Ⅱ』(岩波書店) 五九一〜六〇四頁

二〇〇三年 「カルウウスとカトウツルス(2)——カトウツルス第五〇歌——」『人文学報』(東京都立大学人文学

部) 第三三四号、一〜四三頁

二〇〇三年七月 「キケローのカルウウス批判——「アッティシズム」の一断面：*iudicium*をめぐる——」『古代ギ

リシャ・ローマ研究の方法』(多分野交流演習論文集、東京大学大学院人文社会系研究科 多分野交流プロジェ

クト)、六九〜九五頁

二〇〇五年 「*Lucretiana*——*Lucr.* 3. 620, 969 のテキストと解釈——」『哲学誌』(東京都立大学哲学会) 第四七号、

二三〜三八頁

二〇〇六年 「『倫理書簡集Ⅱ』解説」『セネカ哲学全集6 倫理書簡集Ⅱ』(岩波書店)、四〇七〜四三八頁

二〇〇七年 「カトウツルスの難読箇所について——*Catull.* 25. 5——」『フィロロギカ』(古典文献学研究会) 第二号、

七三〜八五頁

二〇〇八年 「*Mens Provida Reguli*——*Hor. Carm.* 3. 5 の一解釈——」『人文学報』(首都大学東京人文学部研究科)

第三九九号、四七〜六〇頁

- 二〇〇八年 「カトゥッルス」の難読箇所について (2) —— Catull. 107. 7-8 —— 『フィロロギカ』(古典文献学研究会) 第三号、一〇二二三頁
- 二〇〇九年 『Ojōns Bandusiae——Horatius, Carm. 3.13——』大芝芳弘・小池登 [編] 『西洋古典学の明日へ 逸身喜一郎教授退職記念論文集』(知泉書館)・一三二〜一五〇頁
- 二〇一一年三月 「キケロー『国家論』へのプラトン『国家』の影響——「洞窟の比喻」との関連を中心に——」『理想』第六八六号(特集 プラトンの「国家」論)、八三〜九九頁
- 二〇一二年五月 『Horatius, Epod. 11』『フィロロギカ』(古典文献学研究会) 第七号、一〇二二頁
- 二〇一四年三月 「ホラーティウス『エポデー』における「自由」——「呪縛と解放」の観点から——」『人文学報』(首都大学東京人文科学研究科) 第四八九号、一〇三八頁
- 二〇一五年五月 「ルクレーティウスの序歌について」『フィロロギカ』(古典文献学研究会) 第一〇号、一四〜三六頁
- 二〇一七年六月 『Horatius, Carm. 2.16 Otium divos』『フィロロギカ』(古典文献学研究会) 第十二号、一五〜四六頁
- 二〇二〇年一〇月 『Horatius, Epist. 1.19.19-34』葛西康德 [編] 『藤花のたわむれ 久保正彰先生の卒寿を祝して』久保正彰先生卒寿記念論集』(Bibliotheca Wisteriana)・一〇九〜一三四頁
- 二〇二一年一月 「プロペルティウス第三巻の詩作構想——第九・一一歌を中心に——」浜本裕美・河島思朗 [編著] 『西洋古典学のアプローチ 大芝芳弘先生退職記念論集』(晃洋書房)、一四〇〜一八四頁

- 一九八七年 Griffin, J., *Latin Poets and Roman Life* (London 1985) 〔『西洋古典学研究』第三五号、一一一～一二四頁〕
- 一九八八年 Clausen, W., *Virgil's Aeneid and the Tradition of Hellenistic Poetry* (Berkeley 1987) 〔『西洋古典学研究』第三二六号、九八～一〇一頁〕
- 一九八九年 Schenk, P., *Die Gestalt des Turnus in Vergil's Aeneis* (Anton Hain, Königstein/Ts. 1984) / Renger, C., *Aeneas und Turnus: Analyse einer Feindschaft* (Peter Lang, Frankfurt am Main 1985) 〔『西洋古典学研究』第三七号、一六～一一九頁〕
- 一九九二年 Virgil, *Georgics*, Edited and Commentary by R. F. Thomas, 2 vols. (Cambridge Greek and Latin Classics, Cambridge 1988), Vol. 1: Books I-II; Vol. 2: Books III-IV. / Virgil, *Georgics*, Edited with a Commentary by R. A. B. Mynors (Clarendon Press, Oxford 1990) 〔『西洋古典学研究』第四〇号、一〇一～一一三頁〕
- 一九九五年 小川正廣『ウェルギリウス研究——ローマ詩人の創造——』(京都大学出版会、一九九四年) 〔『西洋古典学研究』第四三号、一〇九～一一一頁〕
- 一九九九年 Fantham, Elaine, *Roman Literary Culture: From Cicero to Apuleius* (The Johns Hopkins University Press, Baltimore and London 1996) 〔『西洋古典学研究』第四七号、一四四～一四六頁〕
- 二〇〇三年 Adams, J. N. & Mayer, R. G., edd., *Aspects of the Language of Latin Poetry* (Proceedings of the British Academy, 93; published for the British Academy by Oxford University Press, Oxford 1999) 〔『西洋古典学研究』第五一号、一四一～一四四頁〕
- 二〇〇七年 國原古之助『古典ラテン語辞典』(大学書林、二〇〇五年) 〔『西洋古典学研究』第五五号、一四九～

五一頁]

二〇〇八年 Nisbet, R. G. M. and Rudd, N., *A Commentary on Horace: Odes, Book III* (Oxford University Press, Oxford 2004) [『西洋古典学研究』第五六号、一二五～一二八頁]

二〇一一年 Harrison, S. J., *Generic Enrichment in Vergil and Horace* (Oxford University Press, Oxford 2007) [『西洋古典学研究』第五九号、一四五～一四八頁]

二〇一五年 Tarrant, R., ed., *Virgil, Aeneid Book XII* (Cambridge Greek and Latin Classics, Cambridge 2012) [『西洋古典学研究』第六三号、一〇九～一二二頁]

ラテン語辞書項目執筆

Thesaurus Linguae Latinae, Teubner, Stuttgart/Leipzig 1900-

« perdisco », « perdix », etc.: Vol. X, 1, Fasc. VIII (1994)

« perfidia », « perfidus », etc.: Vol. X, 1, Fasc. IX (1995)

« perperlo »: Vol. X, 1, Fasc. XI (1998)

翻訳

一九八五年 『ウェルギリウス・ロマヌス (VAT. LAT. 3867) 解説』 (ヴァティカン教皇庁立図書館蔵本ファクシミリ版 解説書日本語版) カロロ・ビルテツリ「解説」、久保正彰、今道友信、辻佐保子「日本語版監修」、片山英男、大芝芳弘他「翻訳」(岩波書店)「共訳」[担当部分：一二三頁～五七頁、一九二頁～二二二頁]

一九九〇年 『ギリシア悲劇全集4 ソポクレス「エレクトラー」』（岩波書店）〔翻訳・訳注：一八三頁～二八六頁、解説：四二三～四四一頁〕

二〇〇一年 『キケロー選集14 書簡集Ⅱ アッティクス宛書簡集Ⅱ』（岩波書店）〔共訳〕〔翻訳・訳注：二九六～五八一頁、二九六～五八一頁、解説：五九一～六〇四頁〕

二〇〇六年 『セネカ哲学全集6 倫理書簡集Ⅱ』（岩波書店）〔翻訳・訳注：一～四〇五頁、解説：四〇七～四三八頁〕
二〇〇六年 『キケロー書簡集』高橋宏幸〔編〕（岩波文庫）〔共訳〕〔翻訳・訳注担当部分：四〇〇～四一八頁、四二八～四五四頁、四五八～四六三頁、四七〇～四八一頁、四九六～五〇九頁〕

その他

一九九七年 「『ウェルギリウス研究』をめぐる」『西洋古典学研究』第四五号、一五七～一五九頁

一九九九年八月 『Thesaurus Linguae Latinae：一世紀を超えたラテン語辞書編纂——国際共同研究に参加して——』

『学術月報』第五二巻第八号「通巻六五七号」、六〇～六四頁

一九九九年 『世界の旅行記101』樺山紘一〔編〕（新書館）「『ガリア戦記』」「エリュトウラー海周航記」の項、一九～二三頁

二〇〇八年八月 『世界のことば・辞書の辞典 ヨーロッパ編』石井米雄〔編〕（三省堂）「『ラテン語』の項、四五八～四七二頁」

二〇一二年（平成二十四年）三月 「『古代ラテン語集成』（TLI）国際協力委員会報告」『日本學士院紀要』第六十六卷第三號（日本學士院）、一三七～一四五頁

二〇一五年（平成二十七年）三月 「『古代ラテン語集成』（EL）国際協力委員会報告」 『日本學士院紀要』第六十
九卷第三號（日本學士院）、一四九～一五〇頁